



食と農林漁業の祭典

ジャパンハーヴェスト 2018

平成 30 年 11 月 4 日

「JAPAN HARVEST 2018 丸の内農園」広報事務局

約 13 万人が来場！

都心に現れた“農園”で食文化を体験！

『JAPAN HARVEST 2018 丸の内農園』

2018 年 11 月 3 日(土)・4 日(日)

丸の内農園

Marunouchi Farm



農林水産省が主催する、農業や和食文化を楽しめるイベント「JAPAN HARVEST(ジャパン・ハーヴェスト)2018 丸の内農園」が 11 月 3 日(土)・4 日(日)の 2 日間開催された。7 回目を迎えた今年は、約 13 万人が集まり、様々な形で食文化に触れることができる機会となった。

●大学生が熱い対決！「食と農林漁業大学生アワード 2018」

イベント 2 日目となった 4 日は、丸ビル 1F マルキューブにて、「食と農林漁業大学生アワード」が開催された。本アワードは、「食」と「農林漁業」を通じた「地域」の再生に向けて、大学生の相互の研鑽と連携の強化を促進するとともに、若者の取組の重要性についての国民的理解を深めることを目的として開催。全国から集まった「食」と「農林漁業」に関わる学生団体の中で、当日は書類選考をくぐり抜けた 10 団体が 5 分間のプレゼンテーション等で「農林水産大臣賞」を目指し競い合った。審査員もハイレベルと評した熱い戦いが続く中、今年農林水産大臣賞に輝いたのは、鳥取県で学生ボランティアと農村集落をつなぐ活動を行い今年 8 人が鳥取に移住した「農村 16 きっぷ」。トロフィーを手にした代表者は、「2 年前先輩方が受賞したこの賞を私達もいただけたとは思ってもいなかったが活動が認められて嬉しい。」と喜びを語った。出場者や審査委員らが一堂に会したフォトセッションでは、皆でかけ声を合わせてポーズをとるなど和やかな雰囲気ステージは幕を閉じた。

●地域に根ざした“惣菜”のおもしろさを体感！「“惣菜”をもっと美味しくもっとおもしろくPJ」

続いて開催された「“惣菜”をもっと美味しくもっとおもしろくPJ」では、日本各地にある、その土地ならではの“惣菜”のルーツを知ることで、“惣菜”をもっと美味しく感じてもらうことを目的とした特別授業が開催された。現役大学生の地理女子 3 名による日本各地の「雑煮」をテーマにしたトークショーや、惣菜アドバイザーによるお惣菜作りのワンポイントレッスンが行われた。最後には惣菜クイズが行われ、来場者の方は惣菜のおもしろさを学ぶ機会となった。



＜「食と農林漁業大学生アワード 2018」の様子＞



＜「“惣菜”をもっと美味しくもっとおもしろくPJ」の様子＞

●丸の内仲通り沿いの食と農林漁業を体験できるブースは来場者で連日賑わいをみせた

4つのエリアと特設ステージでは、食と農林漁業に関する様々な学び・体験ブース、約90ブースが出展。

- ・農業女子プロジェクトでは、ダイハツ ハイゼットトラックの荷台を活用し、農業女子プロジェクトに参画する就農女性たちによるマルシェや、参画企業によるブース
- ・乳牛の搾乳、子牛への授乳、農作物の収穫等の体験できるブース
- ・ご当地！絶品うまいもん甲子園や、食と農林漁業大学生アワード出場者の学生たちによる展示や試食・販売
- ・国産農林水産物の消費拡大を目的としたフード・アクション・ニッポン アワードの受賞・入賞製品の試食・販売
- ・出汁の飲み比べのほか、身近・手軽に健康的な和ごはんを広める「Let's！和ごはんプロジェクト」など和食文化の保護・継承などへ向けた取組の紹介

など、多種多様なブースが立ち並んだ。4日は時折雨が降る肌寒い天気の影響もあってか、「和食文化体験」内での温かいみそ汁や日本茶の試飲ができるブースなども賑わいをみせていた。



<2日目の会場の様子>

〈開催概要〉

- 名称: JAPAN HARVEST (ジャパン・ハーヴェスト) 2018 丸の内農園
 - 主催: 農林水産省
 - 期間: 2018年11月3日(土)・4日(日) 11:00~16:00
 - 会場: 東京・丸の内仲通り
 - 入場料: 無料
 - 運営: JAPAN HARVEST 運営事務局(株式会社マインドシェア内)
- 電話: 03-3451-4004(受付時間: 平日 10:00~17:00)
FAX: 03-5232-0586
メール: japanharvest@mindshare.co.jp
■公式 Web サイト: <http://tabeyo-kokusan.jp/japan-harvest2018/>